

# 第2期氷見市観光振興ビジョン

## 概要版

### ビジョン策定の背景と目的

急速に進む少子高齢化を背景とした人口減少が著しい氷見市において、観光振興による地方創生への期待は大きく、活力ある地域社会を維持・発展させるため、限られた資源の中において、より実効性の高い取組が求められています。

一方で、2020年（令和2年）1月以降の新型コロナウイルス感染症の世界的拡大を受け、市内観光産業は厳しい状況が続いており、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図りつつ、地域経済を支える観光の再生と新たな観光需要の創出に向けた取組を進めることが喫緊の課題となっております。

このような状況を踏まえ、これまでの取組等を今後も切れ目なく推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んだ観光需要の回復、ウィズコロナにおける新しい観光スタイルへの対応等も見据え、これまで以上に戦略的に観光振興に取り組むことを目的とし、本ビジョンを策定します。

### 氷見市の観光の現状と課題

- ・ コロナ禍により落ち込んだ観光入込客数の段階的な回復を目指す過程においては、今まで以上に観光客の滞在時間の延長を図り、本市での観光消費額の向上につなげていく必要があります。
- ・ ウィズコロナにおけるニューノーマルな旅行を実践する上で、宿泊施設での「三密」対策の徹底が求められるなど、旅行者の衛生意識が高まっています。
- ・ 旅先を選択する際の情報収集手段は、インターネットやモバイル端末等へ急速に移行しています。
- ・ 情報技術の進展は、観光情報の即時性を高めており、デジタル媒体を積極的に活用した情報発信を強化する必要があります。
- ・ 旅行者のニーズは、団体旅行が中心であった時代の宴会型から、旅行者が自分の興味・ニーズを中心とした個人旅行を楽しむ傾向に移行しています。

### 計画期間

2022年度（令和4年度）から2026年度（令和8年度）までの5年間  
（第9次氷見市総合計画前期基本計画と同じ計画期間とします）

### 目指すべき将来像及び数値目標

- ☑ 旅先に選ばれ続ける観光都市「氷見」
- ☑ 市民が地域に誇りをもち、地域経済効果を実感できる観光都市「氷見」

目指すべき将来像 豊かな里山里海の恵みをつむぐ氷見の物語を伝えよう  
～ 地域資源の価値を活かしつつ、時代の変化に柔軟に対応するおもてなし力の高い安全安心な観光都市を目指して ～

| 指標           | 令和2年     | 令和8年    | 備考                 |
|--------------|----------|---------|--------------------|
| ① 観光入込客数     | 127万人 →  | 230万人   | 前計画目標値 230万人（R3）   |
| ② 宿泊者数       | 12万人 →   | 22万人    | 前計画目標値 22万人（R3）    |
| ③ 外国人宿泊者数    | 461人 →   | 15,000人 | 前計画目標値 15,000人（R3） |
| ④ 観光消費額※1    | 110億円 →  | 200億円   | 前計画目標値 148億円（R3）   |
| ⑤ 平均滞在時間※2   | 2時間59分 → | 4時間00分  | 前計画目標値 3時間（R3）     |
| ⑥ 平均立寄り箇所数※3 | 1.81箇所 → | 3.00箇所  | 前計画目標値 2.0箇所（R3）   |

※1 日帰り客消費単価 7,472円（R2）×日帰り客数 208万人+宿泊客消費単価 20,342円（R2）×宿泊者数 22万人

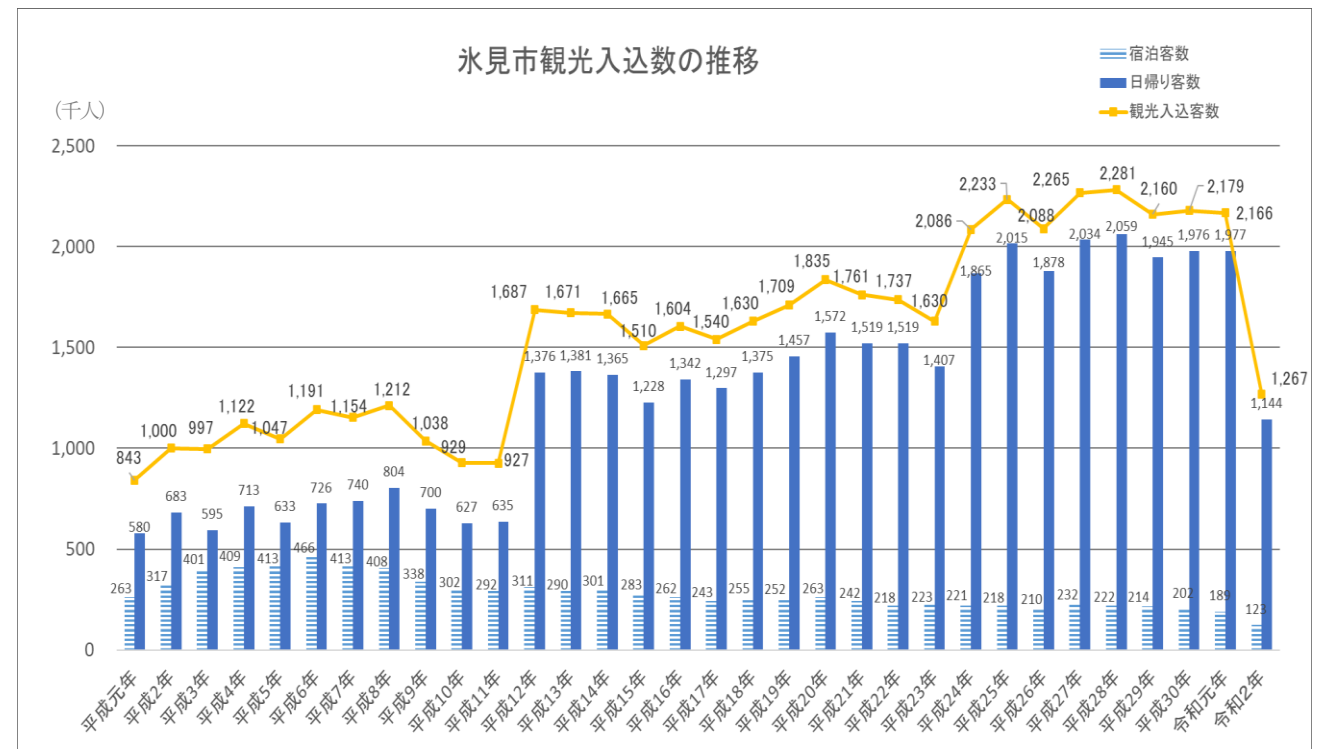
※2 日帰り客の平均滞在時間（R2）

※3 観光客の平均立寄り箇所数（R2）

### 氷見市観光入込客数の推移

統計を取り始めた1989年（平成元年）に843千人であった本市の観光入込客数は、2012年（平成24年）にひみ番屋街がオープンすると、はじめて2,000千人の万台を越え、2,086千人となりました。北陸新幹線開業効果が顕著に現れた2015年（平成27年）は2,265千人となり、以降は2019年（令和元年）まで、開業前の水準を上回る観光入込客数を維持しましたが、2020年（令和2年）は、世界的に流行した新型コロナウイルスの影響が顕著に表れ、1,267千人と大幅に減少（前年比41.5%減）しました。

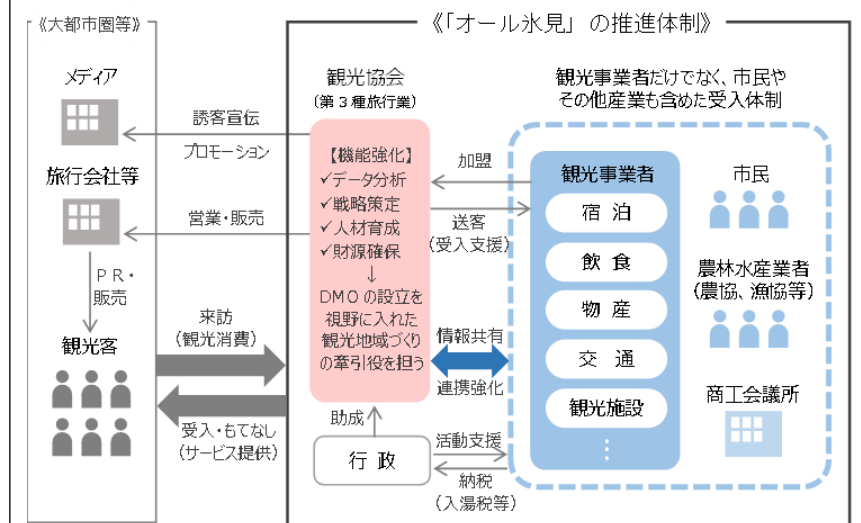
宿泊者数が最も多かったのは、1994年（平成6年）の約470千人でしたが、余暇の過ごし方や消費行動の多様化、旅館の廃業等により、2017年（平成29年）の宿泊者数は約210千人と、ピーク時の半数以下にまで減り、2020年（令和2年）は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う入国制限や行動制限等により、約120千人までさらに大きく落ち込みました。



### 氷見市観光振興ビジョンの推進体制

観光振興ビジョンの推進・管理にあたっては、PDCAサイクル（Plan：計画、Do：実行、Check：評価、Action：改善）に基づき、事業等の実効性を高めるとともに、定期的な評価を行い、結果に応じて事業等を見直し、改善していく必要があります。

そのため、PDCAサイクルを実行する主体として、氷見市観光振興ビジョン推進会議において事業評価等の協議・判断を行います。



第2期氷見市観光振興ビジョン 概要版（令和4年3月）

●編集 氷見市観光振興ビジョン推進委員会 ●発行 氷見市観光交流課

## 第2期氷見市観光振興ビジョン

### 第2期氷見市観光振興ビジョンの体系

